

海外安全対策情報（平成30年10月～12月）

1 社会・治安情勢

(1) テロ等の傾向

ア パキスタンのテロ事件発生件数はパキスタン軍等によるテロリスト掃討作戦により、2009年をピークに減少傾向にあるものの、引き続きテロ案件は発生しており、警戒を要する。テロの件数等は前期（2018年7月～9月期）とほぼ同数であった。（58件→59件）前期はパキスタン総選挙に関連し、選挙集会会場等多くの人が集まる場所でのテロが発生したため多数の死者が発生したが、今期は大規模なテロ事件が発生しなかったことから、死者が168名減少した（278名→110名）、負傷者についても325名減少（489名→164名）した。（パキスタン平和研究所調べ。）

また、2017年2月から開始されている軍及び治安機関等による対テロ作戦（ラッドウル・ファサード（Radd-ul-Fasaad・脅威の除去））は引き続き国内各地で実施されており、テロリストの検挙、武器等の押収等一定の成果を収めている。今期においても、単独又は少数犯による自爆、襲撃及び簡易爆弾（IED）攻撃が主要なテロの手段として見られ、その標的の多くは軍・治安当局とその関連施設であるが、テロ組織の中には中国・パキスタン経済回廊（CPEC）や中国関連施設への攻撃を企図する組織もある。

11月23日には、カラチ市においてバロチスタン解放軍（BLA）によって在カラチ中国総領事館が攻撃され、館内への侵入は阻止されたものの、一般市民を含む7名が死亡した。

BLAはバロチスタン州の分離独立を求めているほか、本年8月にはバロチスタン州においてCPEC事業に従事する中国人労働者が乗車したバスをバイクで自爆攻撃するなど、CPEC関連のインフラ開発事業に反対しており、今後も中国関連施設への攻撃の継続を示唆している。

また、カシミールのパキスタン・インド管理ライン（LoC）では依然として両軍による局地的な衝突が断続的に発生しており、今期も多数の民間人が死傷するなど、今なおカシミールにおける両国の軍事的な緊張は続いている状況である。11月10日午前、アーザード・ジャンム・カシミール（AJK）国境沿いのLeepa セクターにおける管理ライン（LoC）を越えた印軍の一方的な砲撃により、民間人4名が重傷を負った。パキスタン軍は、同砲撃に関与した印軍哨所へ報復攻撃を行った。

イ 今期、当館管轄地域では、KP州及び旧連邦直轄部族地域（FATA）を中心に、軍又は治安当局とその関連施設をターゲットとしたテロが発生した。

また、都市部や地方別に関わらず、治安当局によるテロリストの拘束事件及び武器・弾薬等の押収事件も多く確認された。こうした状況から、治安当局による徹底した取締りが行われた一方、都市部においてもテロの脅威は存在し、テロの潜在的脅威は依然として存在すると考えられる。

(2) デモの傾向

当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による政府機関に対する労働環境改善要求等の抗議活動が行われる傾向にある。今期においては、12月に教職員組合が政府に対して未払い給与の支払いを求めて、少数ながらも座り込みやデモを実施し、一部の幹線道路が長期間交通規制された。

10月30日、最高裁がキリスト教徒死刑囚に対して無罪判決を出したことに抗議し、新興宗教政党TLP等が、各地で抗議活動を行った。デモ隊の抗議活動を封じ込めるため、治安部隊によってカラチ市内やイスラマバード市内等では一時厳戒態勢が敷かれた。このほか、小規模なデモは国内各地で行われた。

今後も同様の抗議活動が発生する可能性がある。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 邦人被害事案

なし。

(2) 銃器使用犯罪

本期間においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が散発的に発生している。

12月19日にはイスラマバード市内F-11エリア周辺を歩いていた外国人が拳銃を所持した男らに襲撃され、ユーロ現金や携帯電話を強奪される事案が発生している。

治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器の蔓延が問題となっている。

(3) 招き入れ型侵入犯罪

イスラマバードは富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に荷担する事件が時折発生している。2017年9月には、ラワルピンディ市内において、中国人が帰宅途中に金品を強奪され、警察による捜査の結果、同中国人の元運転手が事件を手引きしていたことが判明した。

(4) 名誉殺人

当地では、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される名誉殺人が跡を絶たない。パキスタンの保守的なイスラム社会では、毎年数百人の女性が名誉殺人の犠牲になっており、今期も凄惨な殺害事件が発生している。

(5) 性犯罪及び虐待

当地では、強姦を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は多いと言える。同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出

ないことも少なくなく、被害実態は正確に把握されていない。

10月4日には、路上を歩いていたイスラマバード警察の女性警察官が、25歳の男に暴行される事件が発生した。

(6) その他

本期間においても連日、不法な銃器・爆発物・薬物・酒類の押収事案が報じられた。これらの事案は、厳重な警戒下にあるイスラマバード市内においても、テロ発生の可能性は依然として排除できないことを示している。

今期はイスラマバード市内で中国人等が違法に酒を密売したり、密造酒を造るなどして摘発される事件が発生した。

また、近年、CPEC事業関連機器の輸入を装って、中国からの酒類の密輸が横行している。10月8日にはギルギット・バルチスタン地域のフンザにおける通関手続き中に、中国ブランドの酒類4、800本、トランシーバー99セット及び数百万ルピー相当の装飾品を密輸しようとした業者が摘発された。

3 2017年10月から2018年12月までのテロ事件発生状況

【2017年】

10月	31件、死者	59名、負傷者	142名
11月	32件、死者	51名、負傷者	78名
12月	29件、死者	36名、負傷者	132名

【2018年】

1月	27件、死者	40名、負傷者	70名
2月	24件、死者	38名、負傷者	46名
3月	25件、死者	37名、負傷者	55名
4月	29件、死者	44名、負傷者	98名
5月	21件、死者	31名、負傷者	75名
6月	19件、死者	16名、負傷者	34名
7月	22件、死者	230名、負傷者	417名
8月	19件、死者	14名、負傷者	51名
9月	17件、死者	34名、負傷者	21名
10月	28件、死者	28名、負傷者	52名
11月	20件、死者	64名、負傷者	80名
12月	11件、死者	18名、負傷者	32名

(出典：パキスタン平和研究所)

4 安全を考える上で参考となる事件等 (報道ベース)

- 10月2日、アフガニスタンから越境してきたテロリストらが、KP州北ワジリスタン部族郡のパキスタン国境哨所を襲撃した。同哨所は反撃し、銃撃戦により、テロリスト7名が殺害され、3名が負傷した。
- 10月2日午後7時頃、KP州ハヤタバードの有料道路料金所付近の警察署

の管轄区域内において即席爆発装置（IED）が爆発し、民間人1名及び辺境警備隊（FC）兵士1名が負傷した。

- 10月4日午後10時頃、KP州ペシャワールの郊外 Akhundabad 付近において、シパヘ・サハバの後継組織で、禁止団体に指定されているASWJのIsmail Drawers 同市支部長代行兼最高幹部が、自宅に帰る道中、オートバイに乗った犯人に射殺された。
- 10月11日、印国境警備隊（BSF）による一方的な攻撃により、実効支配線（Working Boundary）沿いのパンジャブ州シアルコートの Sukhial 村において、耕作をしていた民間人1名が重傷を負った。
- 10月11日、KP州南ワジリスタン部族郡 Makeen tehsil 地区のアフガン国境付近の道路脇の爆弾が爆発し、兵士3名が死亡、5名が負傷した。
- 10月26日、KP州北ワジリスタン部族郡のバイパス道路において、ミリタントによって仕掛けられた遠隔操作の爆弾が爆発し、車両で移動中だった治安要員2名が負傷した。
- 10月29日午前10時頃、KP州バジョール部族郡 Nawagai tehsil 地区の道路脇で爆弾が爆発し、部族警察要員4名が重傷を負った。爆発は、地域の政治家が部族警察要員らと公用車で同地を通過した際に発生した。
- 10月29日、KP州モーマンド部族郡において遠隔操作のIEDが爆発し、部族警察高官1名が死亡した。
- 10月30日、KP州モーマンド部族郡 Safi tehsil 地区 Alingar 地域において地雷が爆発し、部族警察要員1名が死亡した。
- 10月31日、KP州ハイバル部族郡ティラー渓谷において、何者かによって仕掛けられていた地雷が爆発し、同地に配置されていた国境警備隊員1名が負傷した。
- 11月2日、パキスタン有数の宗教政治指導者でJUI-S代表のモラーナー・サミウル・ハックが暗殺された。
- 11月3日、KP州北ワジリスタン部族郡ダッターヘール（Datakhel）地区において対人地雷が爆発し、兵士2名が負傷した。
- 11月5日、ダッターヘール地区の道路脇で遠隔操作爆弾が爆発し、兵士1名が死亡し、1名が負傷した。同爆発後、同部族郡ミランシャー及びミラーリ地区で夜間外出禁止令が発令された。
- 11月7日、KP州モーマンド部族郡において発見されたIEDが、爆弾処理班の作業中に爆発し、陸軍大尉1名が死亡し、兵士1名が重傷を負った。
- 11月7日、KP州北ワジリスタン部族郡 Gharyum 郡 Rogha Badar 地域においてIEDが爆発し、兵士3名が負傷した。
- 11月9日、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリ郡 Eidek 地域において、道路沿いに放置されたオートバイに仕掛けられた爆弾が爆発し、民間人1名が死亡し、3名が重傷を負った。
- 11月12日、KP州北ワジリスタン部族郡ラズマックの Guryaum 地域にお

いて、巡回中だった治安部隊の車両が身元不明の犯人に銃撃され、治安要員4名が負傷した。

- 10月27日にイスラマバードにおいて拉致された、ペシャワール警察幹部が、11月13日にアフガニスタンで遺体となって発見された。
- 11月15日、テロ対策局（CTD）は、パンジャブ州サーヒーワールにおいて、ラシュカレ・ジャングビ（LeJ）に所属しているとみられるミリタント3名を逮捕し、所持品からピストル、爆発物及び起爆装置を押収した。
- 11月17日、アフ・パク国境付近のKP州北ワジリスタン部族郡 Ghulam Khan 郡 (tehsil) Gurbaz 地域において、辺境開発機構（FWO）の車両に乗っていた治安要員2名がロケット攻撃により死亡し、2名が負傷した。
- 11月20日、アーザード・ジャンム・カシミール（AJK）国境沿いの Chirikot セクター Seerhiyan 村における管理ライン（LoC）を越えた印軍の一方的な砲撃により、民間人2名が負傷した。
- 11月21日夜、KP州バジョール部族郡 Nawagai 郡 Charmang 地域の道端において、身元不明の犯人により仕掛けられたIEDが爆発し、少なくとも2名が死亡した。
- 11月21日、KP州スワート渓谷マッタ郡 Nelagram 村において、畑に埋められていた古い迫撃弾が爆発し、子供3名が死亡し、同2名が負傷した。一方、同日、アフ・パク国境付近のKP州バジョール部族郡 Chinar Charmang 地域の道路脇で、設置されていた遠隔操作爆弾が爆発し、2名が死亡した。
- 11月22日朝、KP州南ワジリスタン部族郡アングールアッダ・バザールのアジトで爆発物が爆発し、ハッカーニー・ネットワーク所属のミリタント3名が死亡し、12名が負傷した。同爆弾は、タリバーン指導者の事務所に仕掛けられていた。
- 11月23日、KP州中部オラクザイ部族郡カラヤ地区において自爆テロが発生した。翌日、ISが犯行声明を発出した。
- 11月24日、KP州北ワジリスタン部族郡ダッターヘール地区において、治安部隊がミリタント1名を殺害した。
- 11月27日、KP州北ワジリスタン部族郡 Kajhori 地区において軍のチェックポイントがミリタントによるロケット攻撃を受けた。
- 11月29日、KP州バジョール部族郡 Inayat Killay 地区において、車両が遠隔操作型の即席爆発装置（IED）により爆破され2名が殺害された。
- 11月29日、KP州北ワジリスタン部族郡 Shawal tehsil 地区において、ミリタントが軍のチェックポイントを襲撃し、2名の兵士が負傷した。
- 12月2日、KP州中部オラクザイ部族郡 Mazari Garhi 地区においてIEDの爆発により、2名が負傷した。
- 12月2日、治安当局はKP州北ワジリスタン部族群 Manzarkhel 地区の家屋においてロケットランチャー及び数千の弾薬筒を押収した。
- 12月3日、治安当局はKP州オラクザイ部族郡 Fayyaz 村近辺において、

I E D、手榴弾等の武器を押収した。

- 12月4日、治安当局はK P州コハート(Kohat)の家屋において、2名の容疑者を逮捕するとともに、25キロの爆発物、手榴弾、カラシニコフ等の武器を押収した。
- 12月8日、テロ対策局(C T D)は、パンジャブ州南部の要警戒地域にてテロを計画していたとして、バハワルプールでT T P及びインド亜大陸のアルカイダに属するとされる5名を逮捕した。捜索では、爆発物、手榴弾等の兵器、導火線、現金が押収された。
- 12月8日、ラワルピンディのRatta Amral 警察署管内で警戒中の陸軍警備車両が何者かの自動小銃による銃撃を受け、兵士1名が死亡、市民2名が重傷を負った。
- 12月14日、バロチスタン州トゥルバット・Buleda 近郊Wakai 地域のイラン国境付近を巡回中だった辺境警備隊(F C)車両が、待ち伏せしていた約30名のテロリストらにI E Dによって攻撃され、兵士6名が死亡、14名が負傷した。
- 12月25日、ラーワルピンディ Imperial Market の警察詰所前で、簡易取り調べのため停止を求められたオートバイに乗っていた2人組が、停止することなく同詰所の警察官らに発砲し、警察との間で銃撃戦を行った。同人らは、テロ容疑等で逮捕された。

5 誘拐・脅迫事件発生情報

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件が頻繁に発生している。誘拐・脅迫事件の背景としては、テロ組織による、誘拐事件を利用した政府等への身代金等の要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、一般犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な労力・時間を要すると共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

これまでのところ、邦人及び日系企業に対する脅威情報には接していないものの、2017年5月にはクエッタにおいて中国人の誘拐・殺害事件が発生したほか、同年7月にも、カラチ市内の幹線道路において中国人技術者を対象とした爆発事件が発生するなど、外国人が、事件に巻き込まれるケースも発生している。

活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、先ずは事件に遭わないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず(又は事前通報をせず)

入域した場合には、現地治安当局による安全対策がなされないばかりか、速やかな退去を命ぜられたり、また犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続きを行うことが必要である。なお、手続きを行ったにもかかわらず、政府からの入域許可が得られない場合には、安全上の問題が生じる可能性があるため、当該地域への入域は控えることが望ましい。

(以上)